

KOEKISHA

公益社ハートフル

Heartful



喪主経験者の6割以上^{※1}が葬儀の適正費用を知らずに後悔と回答

後悔をしないために知っておくべき 葬儀費用の知識とは

最愛の人を亡くした悲しみの中、遺族は葬儀の十分な知識もなく、限られた時間の中で、葬儀社選びから、日程、内容、会場、祭壇、食事、返礼品、費用など実に様々なことを決めていくことになります。葬儀後に「もっと葬儀のことを知っていたら」と後悔を感じる人も少なくありません。今回はその中でも特に後悔につながりやすい費用にフォーカスし、わかりにくい見積りの内訳や見方について具体例を挙げながら解説します。

※1 ライフエンディングに関する意識調査 2021年3月 公益社調べ

喪主経験者が知っていれば よかったと後悔していること

故人を弔うための葬儀。無事に執り行えたことに安堵しつつも、葬儀後に後悔する遺族がいます。どのようなことで後悔するのでしょうか？

調査では、知っていればよかったと後悔している人の6割以上が「適正費用」と回答しています。続いて「葬儀社の選び方」、「葬儀の流れ」などが上位に挙げられます。(図1)

なぜ葬儀の「適正費用」を知らなかつ

たことに後悔する人が多いのでしょうか。

葬儀費用についての不十分な 理解が後悔につながる

生前に終活をする人が増えてきたとはいえ、調査によると葬儀社選びのタイミングは「故人が逝去された後」が約6割となっています。多くの遺族は、詳しい知識のない中、葬儀のことを決めていくことになります。特に費用については、葬儀会社から見積もりを提示されても、

初めて見る項目も多く、すぐに費用の内訳を理解するのは大変です。また、費用について質問や希望を言っていないものと躊躇する人もいることから、後から「葬儀費用はあれで適正だったのだろうか」といった想いが後悔へとつながっていきます。

葬儀費用に関わる事例を挙げると

・広告に掲載された金額を鵜呑みにしてしまい、葬儀社が設定した内容では足りず、最終的な支払い額がかなり高くなってしまった。

葬儀のことで知っていればよかったと後悔していること (n=1,000 複数回答)

1位	適正費用	425名
2位	葬儀社の選び方	206名
3位	葬儀の流れ	175名
4位	葬儀のマナー	170名
5位	葬儀の種類	152名

出典
調査名：ライフエンディングに関する意識調査
調査機関：2021年3月16日～18日
調査手法：インターネット調査
回答数：1,000名
対象者：40～70代の男女

- ・代理販売業者の「葬儀セットプラン」「パックプラン」で頼んだところ、セット内容が一律のため、商品やサービスの変更や削除に応じてもらえなかった。
- ・葬儀社が勧めるままに頼んだら、思った以上に豪華になりすぎてしまった。お花の量も多過ぎたので、もう少し費用を抑えても良かった。
- ・他の葬儀社と比較する時間がなかったため、高いのか安いのかの判断ができず、葬儀後、この金額で良かったのかと疑問を持ち、別の葬儀社に問い合わせをして確認した。

簡易な見積りや広告上の金額で判断して葬儀を依頼した場合に、葬儀社との間で齟齬が生じ、トラブルが起こりやすくなるようです。



希望を反映するために役立つ葬儀費用の知識

故人と縁者にとっての最良な葬儀とはさまざま。内容によって葬儀費用が異なるため、まずは自分たちがどのような葬儀を望んでいるかを考えておく必要があります。

その後、必要な費用や心構えを把握し、事前に見積りを取るなどして、費用の内訳や具体的な項目についての情報を得ます。そうすることで必要なものと不要なものとの冷静に判断し選ぶことができます。

プロが答える 葬儀費用の内訳と見積書の見方について

葬儀社によって項目が異なり比較が難しくわかりにくい葬儀費用。葬儀社への問い合わせで最も多いのは費用に関すること。注意点をおさえながら見積書を見てみましょう。

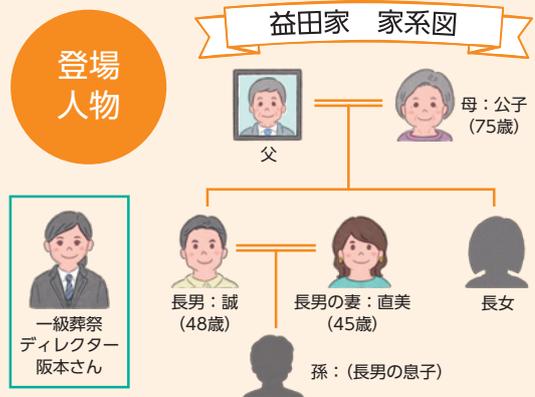
先日、葬儀を終えたばかりの家族が、見積書を取り寄せて、葬祭ディレクターに費用の内訳や見積書の見方を尋ねました。

先日、お父さんが亡くなり葬儀の喪主を務めたお母さん。急な葬儀だったため事前に準備ができず、葬儀費用はあれで良かったのかともやもやしています。

自分の終活もかねて、葬儀費用について調べてみることにしました。



息子たちに迷惑をかけたくないし、調べてみよう



息子夫婦に頼んで、インターネットで葬儀費用を検索してもらおうと、いろいろなプランが出てきました。



葬儀社によって書き方が違うのでよくわからないな。見積書を取り寄せてみよう

〇〇社 見積書

総合計金額 ¥1,167,960

A	基本葬儀料金	385,000
B	式場使用料金	165,000
C	オプション費用	191,400
D	香典	91,740
E	送料・料理	223,300
F	火葬場費用	112,520

式場：●●会館 人数：20名 宗教：仏教式

数日後、見積書が届きました。

やっぱりよくわからないわね



葬儀社に電話して聞いてみると、対面で説明してもらえるとのこと。

自分と同じ思いを息子達にさせないために、息子夫婦に頼み、会館へ付いてきてもらうことにしました。

葬儀の仕方によって異なる費用の内訳とは

葬儀にかかる費用全般を大別すると「葬儀社への支払い費用」と「葬儀社以外への直接支払い費用」に分かれます。

葬儀社への支払い費用

葬儀社がお葬式全般を請け負い提供する物品やサービスの「葬儀一式費用」と、参列者への接待費で飲食や会葬返礼品、香典返しなどの「飲食接待費」を指します。

葬儀社以外への支払い費用

宗教者への謝礼、火葬場費用を指します。

葬儀費用は、葬儀の仕方や規模、参列者の人数によって変わります。

家族や親族をはじめ、故人に生前関係のあった多くの方々が参列し宗教儀礼を中心に儀式を進行する「一般葬」、家族や親しい友人を中心とした少人数での「家族葬」、通夜を割愛して告別式のみ行う「一日葬」、通夜・告別式を行わずに遺体を安置したあと火葬する「直葬」などがあります。

また最近では葬儀のカスタマイズ化もすすみ、音楽葬など無宗教葬といった自由な葬儀も登場し、価値観や思想信条を葬儀に反映させることも可能となっています。

事前の準備で葬儀の適正費用をイメージする

葬儀の費用は、どのような葬儀を執り行うかによって違いがあるため、全ての遺族がイコールではありません。遺族にとって満足する葬儀を執り行うことができ、その費用として納得のいく金額であることが葬儀の適正費用といえます。

葬儀後に後悔しないためにも、あらかじめ葬儀にはどのような内容があるのかを知り、葬儀社に見積もりを依頼するなどの準備をし、自分にとっての適正費用をイメージしておくことが大切です。

実際に会館を訪れた家族3人。
一級葬祭ディレクターに話を聞きました。



見積書の見方がよくわかりません。読み解き方を教えてください。



見積書の見方を理解していただくために、まず葬儀の内容や一連の流れからご説明させていただきます。



葬儀の流れがわかり、必要なものを理解できました。祭壇の種類1つとってもいろいろなのがあるのね。



見積書を作る際は、イメージされるものを持って、項目ごとに内容を決めていきます。カスタマイズしてお出ししていますので、予算により調整することも可能です。



見積書を取る上で、事前に考えておいたほうが良いことは何ですか？



葬儀の規模、人数、式場、安置場所などです。いくつかの候補を考えておき、パターン別の見積書を取ることをお勧めします。



友達も呼んだほうがいいんじゃないかな。人数を増やした見積書もお願いできますか？



もちろんです。最初に金額から入るのではなく、希望されるイメージから葬儀を組み立てていくことが大切です。



他社の見積書と比較する際に、注意するポイントはありますか？



葬儀社によって、内容が異なるため、項目の詳細を聞き、必要なものの有無と総額がいくらになるのかを確認することが大切です。



いつ頃準備を始めれば良いのでしょうか？



お元気な時にご準備をすることをお勧めします。冷静な時に考え、心づもりをすることで、残された家族がいざという時に備えることができ、より納得のいく葬儀ができます。



お父さんの時もこうやって準備しておけばよかったのね。



できるだけご家族で、実際に葬儀社や式場を訪れることをお勧めします。資料やインターネットの写真で見ると、実際に見るのとは印象が異なります。ご家族で話し合うことにより、相違のない、よりご希望に叶った葬儀の見積書をお出しすることができます。

事前に相談して準備しておけば良かったのね。
これで安心！



この人に聞きました！



用賀会館館長、
1級葬祭ディレクター
阪本 さおり (さかもと さおり)

今までの葬儀担当件数は500件以上、「事前相談」「終活セミナー」「家族葬セミナー」などの講師も務める。

一步踏み込んだ終活における ファイナンシャルプランニングのすすめ

葬儀費用と葬儀後にかかる費用について、行政書士でファイナンシャルプランナーでもある専門家の観点から総括的にアドバイスいただきました。

明石久美氏 (あかし ひさみ)
明石シニアコンサルティング
/ 明石行政書士事務所 代表
相続・終活コンサルタント/
特定行政書士
ファイナンシャルプランナー
(CFP・1級)



お金を用意するだけでなく、何にお金がかかるかをまずは把握することが大切です

葬儀に費用がかかることは知られていますが、では、葬儀以外に生じる費用とはどのようなものがあり、いくらかかり、本人または遺族はどう準備したらよいのでしょうか。

《これから起こるかもしれないこと》	
生 (今・今後)	死亡
本人 (親) 病気・ケガ、介護状態、身体不自由、判断力の低下などの困りごと	死後 葬儀、納骨、法要、遺品整理、戸籍取得、財産調査、遺産分割、遺言書の執行、役所の手続き、相続税の申告・納税
家族 (子) 見守り・支援など	

支払いは葬儀後からすぐに生じます。精神的にも金銭的にも事前の準備が必要です

葬儀や埋葬などの死後の費用は遺産からすぐには払えず、誰かが立て替えることになるため、使えるお金を用意しておかなければなりません。

葬儀後も法要などが続くため、祭祀承継者への将来の負担を見越して、費用負担をどうするのか、家族間でよく話し検討することが賢明です。生前に遺言書や死亡保険金などを準備または確認し、家族で情報を共有して備えておくことで、死後の家族間のトラブルを避けることができます。

遺産の相続は、最も良くあるトラブルの一つです。自分の考えを尊重してもらいたい場合には、遺言書を作っておきましょう。遺言書には自分で作成する「自筆証書遺言」と公証役場で作成する「公正証書遺言」があります。「公正証書遺言」は、公証役場で遺言内容を公証人に口述し、書面を作成するため不備の心配はありませんが、「自筆証

書遺言」は、ミスや不備が起こりやすく無効になることがありますので注意が必要です。

遺言書がない場合には、法定相続人同士の話し合い（遺産分割協議）で法令に沿って決めることになります。財産の有無や家族仲に関係なく、思わずトラブルになりやすいので事前の準備を検討することをお勧めします。

よくある遺言書にまつわるトラブル

- ・全文自筆でない、作成年月日、署名、押印がないため無効となってしまった
- ・家庭裁判所で「検認」を行わず、遺言書を勝手に開けて罰金（過料）を払った
- ・親の介護をしたのに、他のきょうだいと同じ割合の相続で不平等感が残った
- ・遺留分（最低限相続できる財産）を考えずに遺言書が作成してあり、家族間でもめた

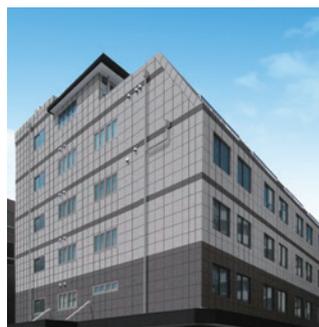
葬儀費用に関しては、できるだけ家族で実際に葬儀社を訪れ、それぞれの意向や疑問をクリアにしておくことも大切です。葬儀後に遺族に不満が残るなどして、費用の支払いを巡りトラブルになることを避けることができます。家族の誰かが事前に相談に行くことに乗り気でない場合には、オンラインセミナーやテレビや本などの終活特集と一緒に観たり勧めたりして、葬儀関連の費用に対する基本的な理解を共有しましょう。

満足のいくライフエンディングを迎えるために

ライフエンディングのプランニングに費用の計画は必須です。お金に関する話し合いはセンシティブだからといって触れないでおくことが、後々の問題を引き起こしかねません。お金に関することだからこそ、家族みんなで事実を把握し、事前に計画していくことが大切です。

公益社とは 燦ホールディングスグループの葬儀サービスを提供する葬儀会社。1932年に大阪で創業。1994年に葬儀会社として初の株式を上場（当時の大証新二部）。2001年に東証大証一部に株式上場。2004年に燦ホールディングス株式会社に商号変更、持株会社となり、会社分割により新たに設立した株式会社公益社に葬祭事業と運輸事業を継承。首都圏と近畿圏を地盤とし、47の葬祭会館を運営するグループの中核会社。創業から89年の豊かな知見を活かし、家族葬、一般葬、社葬など、小規模な葬儀から大規模な葬儀まで執り行うことができる国内最大手の葬儀社です。

<https://www.koekisha.co.jp/>



大阪本社



東京本社